

# 農林水産商工常任委員会資料

(平成22年5月21日)

## 項 目

- 1 日露知事会議及び鳥取県とロシア沿海地方との友好協定締結について  
【経済通商総室(通商物流室)】…………… 1
- 2 境港・東海・ウラジオストク定期貨客船航路の運航状況等について  
【経済通商総室(通商物流室)】…………… 6
- 3 三洋電機株式会社本社への知事訪問について  
【産業振興総室(企業立地推進室)】… 8
- 4 株式会社LASSIC「IT業界エンジニア向けリワーク研修事業」に係る  
調印式について 【産業振興総室(新事業開拓室)】…………… 9
- 5 鳥取県東京アンテナショップ「食のみやこ鳥取プラザ」の状況について  
【市場開拓局市場開拓課】…………… 11

商 工 労 働 部

# 日露知事会議及び鳥取県とロシア沿海地方との友好協定締結について

平成22年5月21日  
文化観光局交流推進課  
経済通商総室通商物流室

5月1日(土)から6日(木)の日程で、平井知事が日露知事会議及び鳥取県とロシア沿海地方との友好協定締結署名式等に参加するため訪露したところ、結果概要は以下のとおりです。

## 【モスクワ部分】

### 1 日露知事会議

(1) 日 時 5月2日(日) 正午から午後4時30分まで

(2) 場 所 ペテロフスキー宮殿(モスクワ市)

(3) 参加団体

《日本側》福岡県知事(全国知事会長)、北海道知事、秋田県知事、山形県知事、新潟県知事、富山県知事、鳥取県知事、東京都副知事

《ロシア側》モスクワ市長(ロシア21世紀委員会会長)、トムスク州知事、リペツク州知事、ヤロスラヴリ州知事、カルーガ州知事、ハバロフスク地方知事、コストロマ州知事、サハリン州知事、カムチャッカ州知事、カリーニングラード州知事

(4) 特記事項

- ・ 境港からの環日本海定期貨客船の利用促進、同貨客船とシベリア鉄道を活用した多様な商材による物流促進や人的交流・観光を発展させるべきと主張。
- ・ さらに、多くの観光資源を抱える鳥取県は、観光の魅力(スキー、温泉、ジオパークなど)も盛りだくさんであることから鳥取県を訪問してほしいと述べた。
- ・ 鳥取県からの提案が認められ、ロシアと日本を結ぶ定期貨客船の利用促進及び定期貨客船とシベリア鉄道を結ぶ物流ルートの確立について、共同声明に盛り込まれた。

### 2 シュポルト・ヴァチェスラフ・ハバロフスク地方知事との会談

(1) 日 時 5月2日(日) 午前9時から午前9時30分まで

(2) 場 所 ペテロフスキー宮殿(モスクワ市)

(3) 特記事項

- ・ ハバロフスク地方政府が、水産物加工の投資を求めていること、また境港市も水産物加工業が盛んであることから、鳥取県とハバロフスク地方との間の水産物加工分野における協力の可能性について意見が一致。
- ・ 環日本海定期航路について平井知事が説明したところ、シュポルト知事より環日本海定期貨客船とシベリア鉄道をつなげて、ロシア西部地域への物流ルート構築を進めるべきではないかとの発言あり。
- ・ 今回の会談をきっかけにして、鳥取県とハバロフスク地方が友好交流関係を築いていくことで意見が一致。

### 3 ホロシャビン・アレクサンドル・サハリン州知事との会談

(1) 日 時 5月2日(日) 午前10時30分から午前11時まで

(2) 場 所 ペテロフスキー宮殿(モスクワ市)

(3) 特記事項

- ・ ホロシャビン知事より、鳥取県がロシア極東地域と良好な関係を構築し国際交流に熱心であることを十分に承知している旨発言あり。
- ・ また、サハリン州は水産物加工が盛んであること、所得水準がロシア国内において最も高い地域であることから海外へ旅行する人々も多いとの発言あり。
- ・ 平井知事からは、環日本海定期貨客船の利用に触れた上で、サハリン州にある極東最大のショッピングセンター「シティーモール」に鳥取県の生鮮食料品を輸出することも可能と発言。
- ・ また、境港市という水産物加工業が盛んな地域があることから、水産物加工に関する交流は両地域が共同して実施できるテーマであると発言。
- ・ 以上のとおり両地域の交流可能性について意見が一致したことから、今後、実務的に協議していくこととなった。

## 【ウラジオストク部分】

### 1 「日本国鳥取県とロシア連邦沿海地方行政府との友好交流及び協力に関する協定」署名式

- (1) 日 時 5月5日(水) 午後5時30分～5時50分
- (2) 場 所 沿海地方迎賓館「ドム・ペレガボーロフ」(ウラジオストク市)
- (3) 特記事項

- ・全国知事会訪露団とダリキン沿海地方知事との意見交換会に続き、平井知事及びダリキン知事との間で「日本国鳥取県とロシア連邦沿海地方行政府との友好交流及び協力に関する協定」に署名。
- ・署名式は日露知事会議に出席された麻生渡全国知事会会長(福岡県知事)をはじめ意見交換会に出席された高橋はるみ北海道知事、吉村美栄子山形県知事、佐竹敬久秋田県知事3人の見守る中で実施。

### 2 ダリキン知事と全国知事会との意見交換会

- (1) 日 時 5月5日(水) 午後4時30分～5時25分
- (2) 場 所 迎賓館(ドム・ペレガボール)
- (3) 特記事項

- ・ダリキン知事から環日本海定期貨客船就航などの紹介、2012年APEC開催を控え国レベルでの様々なプロジェクトが進行していることが報告された。
- ・各道県知事からは、沿海地方と様々な分野で交流を進めていきたい旨発言。
- ・平井知事は、今回の友好交流協定の調印をきっかけに今後更に交流を深めたいとの意見を表明し、ダリキン知事は、鳥取県との交流は理想的な交流であると発言。
- ・なお、同席していたゴルチャコフ沿海地方議会議長より両地域間の交流を発展させる上で議員交流は重要であり、積極的に議員交流を進めたいとの発言あり(後刻、ゴルチャコフ議長より平井知事に対して、9月に同議長が鳥取県を訪問するとの話があった)。

### 3 プシュカリョフ・ウラジオストク市長との会談

- (1) 日 時 5月4日(火) 午後2時～午後2時30分
- (2) 場 所 ウラジオストク市役所庁舎内
- (3) 特記事項

- ・平井知事は、2012年APECに向けプシュカリョフ市長と協力して環日本海定期貨客船を利用した建設資材運搬が有望であること、人的交流も促進したい旨発言。
- ・プシュカリョフ市長は、APEC関連の建設については日本にしかない建設資材もあることから環日本海定期貨客船を利用して運搬することは可能であり、ウラジオストク市としてもロシア側企業の紹介など協力できる旨発言あり。
- ・プシュカリョフ市長から本年7月上旬に予定されるウラジオストク市創立150周年記念行事への知事参加要請があり、知事は両地域の交流深化を図る良い機会として参加を積極的に検討したい旨発言。

### 6 サビノフ・ロシア企業家組織連盟(通称:ロシアの柱:オーポラ・ラシー)沿海地方代表との面談

- (1) 日 時 5月6日(木) 午前7時30分～午前8時10分
- (2) 場 所 ヒュンダイホテル
- (3) 特記事項

- ・今後、鳥取県内における同連盟事務所開設及び同連盟代表団の環日本海定期貨客船を利用した訪鳥など、鳥取県と同連盟とが協力していくことで意見が一致。

#### 【参考】ロシア企業家組織連盟(「ロシアの柱」)

ロシアにおける企業活動の政治的・経済的・法的その他の良好な発展条件の形成に関与するために、企業家の団結を促進することを目的とした団体。中小企業の権利保護、各種問題の解決、セミナー、ビジネスマッチング、外国企業へのコンサルト業務を実施している。ロシア各地に80支部。

### 7 その他

- ・平井知事のウラジオストク滞在中に現地報道機関を対象にした共同記者会見を実施し、また沿海地方との友好交流協定署名式の取材が実施されたことから30社弱の報道機関において鳥取県関連の報道がなされた。
- ・リパエフ・ロシア連邦経済発展省沿海地方代表、ロシア企業関係者との面談も実施された。

## 日本国鳥取県とロシア連邦沿海地方行政府との友好交流及び協力に関する協定

日本国鳥取県とロシア連邦沿海地方行政府（以下、双方）は、  
1991年10月24日付「島根県と鳥取県と沿海地方との間の友好交流に関する覚書」に基づき行われた二地域間の様々な分野における成果についてその意義を認め、  
2009年7月に境港（日本）、東海（韓国江原道）、ウラジオストク（ロシア）を就航するフェリー航路が開設され、双方の関係が新たなレベルに引き上げられたことを認識し、  
2008年5月に鳥取県で「環日本海経済促進協議会」が設立され、2010年に「鳥取県・江原道・沿海地方航路活性化協議会」の設立が計画されていることに注目し、  
2012年の「アジア太平洋経済協力会議」の開催に向けて、ウラジオストク市が経済分野を中心として発展していることを念頭におき、  
現状及びその時代の動向に従って、友好交流及び協力を強化し深化させることに努力する。

以下について合意した。

- 1 双方は日本及びロシア連邦の法律に従って協力していく。
- 2 双方は、日本国鳥取県とロシア連邦沿海地方との間の友好及び協力関係の維持を継続する。
- 3 双方は、経済、貿易、文化、スポーツ、観光、青少年政策に関する分野及び社会分野において、協力拡大を目指す。
- 4 双方は、地域における海上・鉄道輸送インフラという物流ネットワークの発展を主要目的の一つとして認め、地域間の貿易拡大のために物流分野における問題の解決に向けて共同して努力していく。
- 5 双方は、相互発展の基本原則に則り、日本国鳥取県及びロシア連邦沿海地方に存在する企業関係者間における関係が発展することの意義を認める。双方は、すべての企業関係者間の関係が構築され拡大していくことにつき必要な支援を行う。
- 6 双方は、二地域間の友好関係及び相互協力の発展及び深化につき検討するため、定期的に交流代表団を送る。双方における各々の代表団の組織及び検討内容については、事前に協議して決定する。
- 7 本協定は、国内手続きが終了し双方が署名したときから発効する。一方が他方に対して本協定の効力を中断したいことを書面にて通知した場合、本協定は通知した日から6ヶ月間までは失効しない。本協定が失効した場合でも、本協定に従って実施され、本協定事項に基づき実施が継続されるプロジェクトの実施を妨げるものではない。  
2010年5月5日にウラジオストク市で、ロシア語と日本語で各々2部作成し、1部ずつ保管する。

ロシア連邦沿海地方知事  
セルゲイ・ミハイロビッチ・ダリキン

日本国鳥取県知事  
平井 伸治

平井 伸治

## 第15回日露知事会議共同声明

2010年5月2日、第15回日露知事会議がモスクワにおいて開催された。  
この会議には、日本側から以下8名が出席した。

麻生 渡	日本国全国知事会会長、福岡県知事
高橋 はるみ	北海道知事
佐竹 敬久	秋田県知事
吉村 美栄子	山形県知事
泉田 裕彦	新潟県知事
村山 寛司	東京都副知事
石井 隆一	富山県知事
平井 伸治	鳥取県知事

ロシア側からは以下10名が出席した。

ユーリ・ルシコフ	ロシア21世紀委員会議長、モスクワ市長
ヴィクトル・クレス	トムスク州知事
オレグ・コロリョフ	リペツク州知事
セルゲイ・ヴァフルコフ	ヤロスラヴリ州知事
アナトリー・アルタモノフ	カルーガ州知事
ヴァチェスラフ・シュポルト	ハバロフスク地方知事
イーゴリ・スリュニャエフ	コストロマ州知事
アレクサンドル・ホロシャヴィン	サハリン州知事
アレクセイ・クジミツキー	カムチャツカ地方知事
ゲオルギー・ボース	カリーニングラード州知事

両国においては、友好親善関係の増進と経済・貿易関係の発展をめざし、過去1968年から1997年まで14回にわたり日露知事会議を開催してきた。

その後、2009年5月12日の日露知事意見交換会において、今後、両国地方政府代表者による多面的な協力体制や日本・ロシアの相互理解と協調関係を築いていくためには、継続した対話を重ねることが最も重要であることを確認し合い、休止状態にあった日露知事会議の再開を決定したものである。

これにより、本日、モスクワ市において日本の都道県知事とロシア連邦構成主体の地方政府代表者が一堂に会し、友好親善の発展はもとより、両国間の経済交流をはじめ、環境、エネルギー、観光、科学技術等の地域間交流の実態と望ましい交流のあり方、活性化方策について率直に意見交換を行った。

この会議の開催に当たっては、日本側から河野駐ロシア特命全権大使が、ロシア側からフリステンコ産業貿易大臣が出席し、それぞれ鳩山内閣総理大臣、メドヴェージェフ大統領のメッセージを読み上げた。

会議において、日本側参加者は、本格化するロシア極東・シベリア地域の開発に合わせ日露間の経済交流の活性化と拡大を図るため、両国での招聘・渡航手続の簡素化、通関手続の簡素化・迅速化、定期航空路線・定期貨客船等の利用促進、中小企業の進出支援などの取り組みが重要であることを提案した。

また日露経済交流をロシア西部にも進めるため、日露間の定期貨客船とシベリア鉄道を結ぶ物流ルートを確立した上で同鉄道の定時性・迅速性の向上を図ること、さらには経済発展に伴う環境問題への対処と地球環境問題の解決に向けた地域間の技術交流の促進が重要であることを提案した。

ロシア側参加者からは、緊急度の高い具体的な課題の解決を図るため、日本の都道府県知事とロシア連邦構成主体の代表者との間にホットラインを設置することについて提案があった。

また、ハイテク・省エネルギーに関する技術交流、ロシア極東・シベリア地域における燃料エネルギー複合施設の開発と住宅の建設、農作物・漁業資源の加工、観光・交通インフラの開発、日露地域間の交流範囲の拡大、観光発展のためのカムチャツカ地方と日本の都道府県との間の定期航空路線と定期貨客船の開設、大学間交流の一層の推進等の分野における協力について提案があった。

これら両国地方政府代表者の提案は極めて有益なものであり、両国地方政府はその実現に向けて努力し、それぞれ中央政府に対し要請していくことを合意した。

日露双方の参加者は、平和条約の問題に関し相互で受け入れ可能な解決を目的とした対話の継続についての日露首脳の方針を支持した。

会議の内容について、我々は大変満足できるものであったと評価する。

・ 2012年にはウラジオストクでAPEC首脳会議が開催される予定である。ロシア極東・シベリア地域の発展は、今後、両国の発展にとって、大きな影響を及ぼすものであり、APEC首脳会議の成功と大きな成果を期待している。

最後に、次回の日露知事会議を2011年に日本において開催することを決定した。

2010年5月2日

日本側代表团団長  
全国知事会会長  
福岡県知事  
麻生 渡

ロシア側代表团団長  
ロシア21世紀委員会議長  
モスクワ市長  
ユーリ・ルシコフ

# 境港・東海・ウラジオストク定期貨客船航路の運航状況等について

平成22年5月21日  
経済通商総室  
通商物流室

## 1 運航支援補助金

- 平成21年度の境港～東海の総運航回数は73往復、運航経費は863百万円（内訳は下表のとおり）となった。（4月30日、DBS社にて会計法人立会いのもと県担当者も運航経費の詳細の確認を行った。）

【平成21年度 境港～東海運航経費】 (単位：千円)

備船料	船保険料等	燃料費	港費	船内費	旅客費	船員費	貨物費	一般管理費	計
389,452	46,715	177,116	34,254	9,890	39,064	69,588	24,310	72,695	863,087

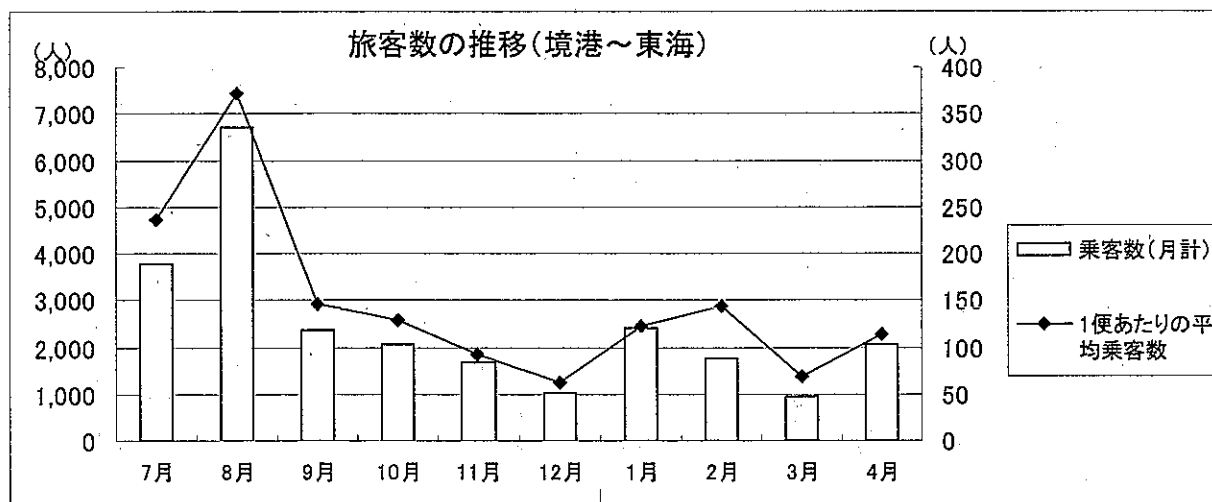
- これにより、1航次（往復）当りの運航経費は11,822千円（＝863百万円／73航次）となり、その1／10が100万円を超えることから、県及び中海市長会による補助金は1航次当たり100万円、全体額で7300万円に確定。
- 県からは、4,380万円（総額7,300万円の県負担分6割相当）を環日本海経済活動促進協議会を通じて運航会社に対し支出。

## 2 境港における運航状況の推移

- 就航以来、台風、船舶の修繕及び点検による計4往復の欠航以外は定期運航を継続中。
- 加えて、現在運航している船舶（イースタンドリーム号）が法定定期検査のためドック入りする期間についても、代替船を投入して定期運航を継続する計画。  
（代替船による境港への寄港は、5月28日（金）境港到着便から開始予定。）
- 旅客に関しては、月別で増減はあるものの、就航以来の累計乗客数1便あたりの平均としては、運航会社が初年度の目標としていた150人を達成している。今年1月以降、ロシア人旅行者が増加している一方で日本人客が減少傾向。
- 貨物については、ベースカーゴ（航路の主力貨物）の確保までには至っていない。東海～境港の貨物量が約3／4を占めるが、境港からロシア向けに自動車、中古農機、重機及びクルーザー等の輸出が相次ぐなど、コンテナ以外の貨物も含めた重量ベースでの取扱貨物量は増加中。

【境港～東海間の旅客動向】 (単位：人)

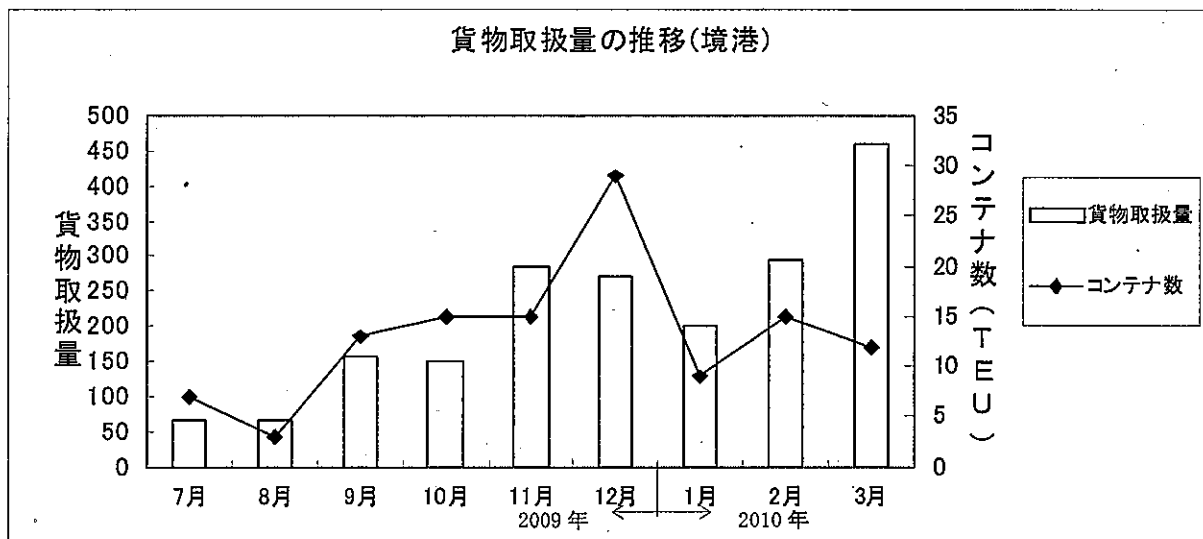
区分	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	計
乗客数(月計)	3,782	6,712	2,354	2,050	1,660	1,014	2,430	1,745	958	2,048	24,753
1便あたり 平均乗客数	236	373	147	128	92	63	122	145	68	114	151



2009年 ↔ 2010年

【境港における貨物取扱量の動向】

区分	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
コンテナ貨物 (単位: TEU)	7	3	13	15	15	29	9	15	12	118
バルク・車両等 (単位: トン)	18	49	54	39	179	76	154	207	383	1,159
コンテナ+バルク等の合計 (単位: トン)	66	67	157	149	285	272	200	294	460	1,950



2. 航路全体の運航実績 (平成 21 年 6 月 2 9 日～平成 22 年 4 月 2 6 日 韓国東海市まとめ)

【旅 客】

区分	境港～東海	東海～ウラジオストク	合 計
運航回数 (往復)	81回	42回	123回
乗客数 (人)	24,602	5,198	29,800

<乗客数の国籍別内訳>

区分	韓国人	日本人	ロシア人	その他	合 計
乗客数 (人)	20,275	3,995	5,238	292	29,800
構成比 (%)	68.0	13.4	17.6	1.0	100.0

【貨 物】 貨物量実績/計184TEU (20フィートコンテナ換算) + 車両・バルク貨物

<貨物量の荷姿別内訳>

区分	コンテナ	車 両	バルク	合 計
重量ベース (トン)	1,285	3,501	2,318	7,104
構成比 (%)	18.0	49.3	32.7	100.0
(コンテナ数)	184TEU	—	—	—

<貨物量の航路別内訳: 重量(トン)ベース>

区 分	東海→境港	境港→東海	東海→ウラジオ	ウラジオ→東海	ウラジオ→境港	境港→ウラジオ	合 計
重量 (トン)	448	306	4,458	1,046	206	640	7,104
構成比 (%)	6.3	4.3	62.8	14.7	2.9	9.0	100.0
主な取扱品目	水産品 リサイクルペット ボトル 機械部類 建設パネ	水産品 日本酒 建設資材 車両部品	果物類 建設重機 車両部品 中古車 バス	水産品 蜂蜜 加工木材 水産品	中古タイヤ 加工木材 製品	中古農機、 クルサー 中古車 車両部品 切り花	



## 三洋電機株式会社本社への知事訪問について

平成22年5月21日  
産業振興総室  
企業立地推進室

平井知事は、パナソニック株式会社及び三洋電機株式会社が事業再編などを盛り込む「新中期計画」（平成22～24年度）を発表したことを受け、三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社（以下、三洋CE）の技術や人材を活かした事業展開を要請するため、次のとおり三洋電機株式会社を訪問しました。

- 1 日時 平成22年5月12日（水） 午後3時30分～午後4時10分
- 2 場所 三洋電機株式会社本社（大阪府守口市）
- 3 対応者 代表取締役社長 佐野 精一郎（さの せいいちろう）
- 4 佐野代表取締役社長の主な発言内容

○三洋CEの主力商品（カーナビ、炊飯器等）は売上が堅調であり、昨年度決算で過去最高の純利益を挙げた業績を高く評価している。

○経営・生産基盤でこういう強みのある商品を中核にすれば、鳥取をベースにした生産は新中期計画以降も心配なく残るだろう。

○白物家電の事業統合は三洋CEの存廃に直接結びつくものではなく、そうした認識をパナソニックとも共有している。

○パナソニックとの白物家電を中心とした重複事業については、パナソニックの経営戦略の中で決めていくことになるので、三洋CEの事業の新陳代謝はあるかも知れない。



（参 考）

### 【パナソニック新中期計画（抜粋）】

#### ○三洋コラボの推進実行

「事業のコラボレーション」と「経営体質強化」により、2012年度シナジー効果営業利益ベース800億円以上を実現

#### ※「グループ・コラボレーション戦略ワーキング」設置

〈コラボレーションの取り組み事例〉

- ・ アプライアンス事業：コラボ商品の投入、開発の一元化・拠点統合により、事業戦略を一元化
- ・ 集中・集約化によるコストダウン：資材の集中購買
- ・ インフラ、ノウハウの共用：海外倉庫、事務所の共用
- ・ グループビジョンの統一（「エコアイデア」マークの統一、共通化等）

### 【三洋電機の新中期計画（抜粋）】

#### ○パナソニックとのシナジー

- ・ 白物家電事業

パナソニックへの事業戦略の一元化。両社の強みを活かしたコラボ商品の投入

# 株式会社 LASSIC「IT業界エンジニア向けリワーク研修事業」に係る調印式 について

平成22年5月21日  
産業振興総室  
新事業開拓室

株式会社LASSIC(本社：鳥取市)が新たに行う「IT業界エンジニア向けリワーク研修事業」について、この事業が円滑に推進されるよう、関係機関の連携・協力について調印式を執り行い、覚書を締結したものです。

1 日時 平成22年4月30日(金) 午前10時～10時45分

2 場所 知事公邸第1応接室

### 3 覚書の趣旨及び内容

- ・株式会社LASSICが行う「IT業界エンジニア向けリワーク研修事業」(次ページ資料参照)について、鳥取環境大学、鳥取市、鳥取県及び鳥取県教育委員会が、この事業が円滑に推進されるよう連携、協力する。
- ・この事業の円滑な推進により、鳥取県における新産業の創出及び地域の活性化に資することを目的とする。

### 4 出席者

#### (1) 調印者

株式会社LASSIC 代表取締役社長	若山 幸司
鳥取環境大学 学長	古澤 巖
鳥取市長	竹内 功
鳥取県知事	平井 伸治
鳥取県教育委員会 教育長	横濱 純一

#### (2) 来賓(ユーザー企業代表)

情報技術開発株式会社 代表取締役会長 竹田 征郎

### <参考>

#### 株式会社LASSICの概要

- 1 本社所在地 鳥取市若葉台南7-5-1 鳥取県産業振興機構内  
\*平成18年12月：鳥取市内で創業し、平成21年に現在地に本社移転
- 2 資本金 2,000万円
- 3 従業員数 23名
- 4 事業内容 ソフトウェア受託開発、システムコンサルティング等
- 5 代表者 代表取締役社長 若山 幸司

# LASSIC「IT業界エンジニア向けリワーク研修事業」とそれを巻き取る概要

## OLASSICが行う「リワーク研修事業」とその特色

- ・大手IT企業のITエンジニアの方で、過密労働等により退職後、復職した方を対象にした早期戦力化研修事業。
- ・この研修を鳥取県内の自然に囲まれた環境、地域とのつながりで行う(研修生1～6か月鳥取滞在)。
- ・研修は、非IT業務(地域での農業体験)、IT関連業務、IT通常業務の研修プログラムを研修生の状況に応じて実施される。
- ・LASSICでは、今後の新たなビジネスモデルとして考えているところ(特許出願中)。
- ・大手IT企業のITエンジニアを研修生として受入れ予定。

## <事業・連携イメージ>

事業実施主体(株)LASSIC(鳥取市内)

鳥取でのリワーク研修実施

大手IT企業の課題・現状

「復職後のITエンジニアの早期戦力化」  
(大手IT企業のITエンジニアの約2～3%が該当)

<顧客>  
大都市圏  
大手IT企業

## リワーク研修事業のプログラムの流れ

\* 研修初期段階では非IT業務を行い、研修生の状況にあわせ徐々にIT関連業務、IT通常業務を増やし、研修最終段階ではIT通常業務のみとなる

非IT業務

例) 農業体験  
(鳥取市内)

IT関連業務

例) 資格取得講座補助

IT通常業務

LASSICでの  
プログラミング業務

関係行政機関による包括的支援

鳥取環境大学  
(学生向け資格取得講座設置)

・非IT業務、IT関連業務(赤点線囲み部分)は  
コミュニティビジネスとして実施される。

顧客の  
課題解決  
早期戦力化

調印参加機関

鳥取県

鳥取県教育委員会

鳥取市

- 鳥取県: 経営革新計画に基づく支援、県HPでの県外に向けた情報発信、コミュニティビジネスの推進施策へのモデル的な活用、事業成果の県内へのフィードバック・有効活用他、各種施策の活用の推進
- 教育委員会: 図書館ビジネス支援サービスによる支援、その他各種施策の活用の推進
- 鳥取市: LASSICと地域住民の連携、共生の支援、その他各種施策の活用の推進

# 鳥取県東京アンテナショップ「食のみやこ鳥取プラザ」の状況について

平成22年5月21日  
市場開拓局  
市場開拓課

鳥取県東京アンテナショップ「食のみやこ鳥取プラザ」の状況について、報告します。

## 1 アンテナショップ効果事例

### <販路開拓・拡大>

アンテナショップ販売商品を首都圏の卸小売業や外食店等に紹介した結果、販路開拓に成果。

#### 【商談継続中の主なもの】

商談相手	商談状況
自然食品を中心に展開するネット通販会社	4月19日・20日に首都圏販路開拓マネージャーと県内を訪問し、県内事業者11社と商談。現在、10社の商品の取扱いについて商談中（鮮魚詰め合わせ、しじみ、一夜干し、らっきょう加工品など）。
全国の小規模作業所や地域のこだわり商品を中心に展開するネット通販会社	9社の商品の取扱いについて商談中（自然薯、ちくわ、紅ズワイガニパウダーなど）。

### <商品開発（改良）>

アンテナショップで収集した情報を県内事業者に伝達し、新商品開発や商品改良に取り組み。

#### 【主なもの】

商品名	内容
干物	小袋、均一価格（350円）商品の商品化

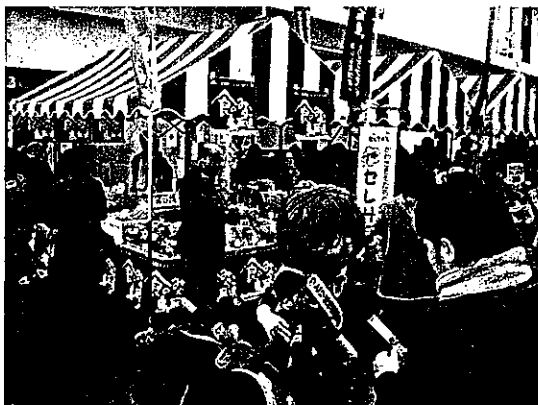
## 2 取組状況

### <県産品の情報発信>

- 読売・日本テレビ文化センターと鳥取県アンテナショップが連携した講座の開催（4/13）  
講座名：「東京おしゃれ街歩きと美食を楽しむ アンテナショップめぐり講座」  
内容：講師のガイド付きアンテナショップめぐり及びトットリーネで昼食（24名が参加）
- テレビ・雑誌等でのアンテナショップの紹介  
スポーツ報知（4/9）、週刊女性（4/27号）、フジテレビ系全国放送「スーパーニュース」（4/29放送）、メトロガイド（5月号）、ぐるなび（グルメ情報検索サイト）
- 地元生産者が講師のらっきょうの漬け方講習会を開催予定（5/26）
- 県内ケーブルテレビにて、アンテナショップの情報を放送開始（毎月、12月まで）

### <催事による情報発信（4～5月実施分）>

- らっきょうを使ったドレッシング、地酒、ブロッコリーを使ったうどん・そば、まぐろを使ったラーメン等の試食販売（9事業者）
- 県内の中学生がアンテナショップにて、地元の観光や物産のPRを実施（岩美・八東・佐治・北浜中学校）
- 2010富士通春まつりにアンテナショップが出展（4/4）
- 新宿駅西口広場で開催の「ゲゲゲの女房」の舞台・調布市物産展にアンテナショップが出展（5/15、16）



2010富士通春まつりの様子



県内中学生による観光・物産PRの様子（岩美中学校）

3 運営状況  
 <来客実績>

区分	物 販 店 舗				レ ス ト ラ ン		
	買物客数	営業 日数	売上高 (千円)		来店客数	営業 日数	売上高 (千円)
				うち催事売上高 (千円)			
H20. 8. 29~ H21. 3. 31	37,662 名	211 日	50,229	806	13,497 名	171 日	50,092
H21.4 月	4,737 名	30 日	5,837	62	1,731 名	25 日	5,925
5 月	6,309 名	31 日	7,590	87	1,822 名	23 日	6,410
6 月	6,159 名	30 日	7,701	212	2,203 名	26 日	7,489
7 月	6,206 名	31 日	7,700	181	2,092 名	26 日	7,345
8 月	7,483 名	31 日	8,198	108	2,268 名	27 日	7,804
9 月	7,002 名	30 日	8,743	209	1,828 名	23 日	6,191
10 月	6,384 名	31 日	7,623	224	1,865 名	26 日	6,716
11 月	6,523 名	30 日	9,241	237	1,578 名	23 日	5,411
12 月	6,438 名	30 日	8,696	281	1,450 名	21 日	5,270
1 月	5,361 名	28 日	6,597	122	1,713 名	23 日	5,526
2 月	5,056 名	28 日	6,756	177	1,609 名	22 日	5,568
3 月	6,229 名	31 日	8,222	236	1,813 名	26 日	6,072
H21. 4~H22. 3	73,887 名	361 日	92,904	2,136	21,972 名	291 日	75,727
合 計	111,549 名	572 日	143,133	2,942	35,469 名	462 日	125,819

<物販店舗の人気商品 (3月)>

順位	品 名	販売価格
1位	干しホタルイカ	525 円
2位	あご入り鰹ふりだし	(3袋入) 380 円
		(30袋入) 1,000 円
		(50袋入) 1,600 円
3位	砂丘らっきょう漬 (甘酢)	1,050 円
4位	打吹公園だんご	(5本入) 500 円
		(10本入) 900 円
5位	あごちくわ (生)	310 円